

2014 - 2015 東京芸術劇場海外オーケストラシリーズI

フランス国立 リヨン管弦楽団



Leonard Slatkin



休日の昼に聴く、
至高のオールフランスプログラム!

ラヴェル:組曲『マ・メール・ロワ』

M.Ravel : Ma mère l'oye Suite

ラヴェル:ピアノ協奏曲 ト長調

M.Ravel : Le Concerto en sol

サン=サーンス:交響曲第3番 作品78「オルガン付き」

C.Saint-Saëns : Symphonie No.3 ut mineur op.78, avec orgue (オルガン:石丸由佳)

指揮:レナード・スラットキン

ピアノ:小菅 優



Yu Kosuge

2014 7.19

土

15:00開演
14:00ロビー開場

東京芸術劇場コンサートホール

全席指定 SS ¥14,000 S ¥12,000 A ¥8,000 B ¥6,000 C ¥5,000 D ¥3,000

※未就学児の入場はお断りいたします。 ※やむを得ぬ理由により曲目等変更の可能性がございます。予めご了承ください。



東京芸術劇場ボックスオフィス

0570-010-296 (休館日を除く10:00~19:00)

<http://www.geigeki.jp/>

チケットぴあ

0570-02-9999 [Pコード:219-174]

ローソンチケット

0570-000-407 [Lコード:38090]

イープラス

<http://eplus.jp/>

東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650

主催:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)

1/28火
一般発売
開始!!

東京
芸術
劇場

Tokyo
Metropolitan
Theatre

L'Orchestre National de Lyon

粋なセンスとローカルな味わい～フランスの響きへの誘い

フランスのオーケストラというとパリ管弦楽団やフランス国立管弦楽団など首都パリの団体を思い起こす人が多いだろうが、パリ以外にも素晴らしい楽団が存在する。中でも特に優れているのが国立リヨン管弦楽団で、パリの楽団の煌びやかさとは趣の違うローカルな味わいにフランスらしい粋なセンスが結びついた響きが魅力的なオケだ。2011年にはアメリカの名指揮者スラットキンが音楽監督に就任、楽団本来の美質に彼らしい研ぎ澄まされた感性を加味して、このオケに新しい息吹を吹き込んでいる。

今回はそのスラットキンとのコンビでの初来日で、リヨン管弦楽団の持ち味が十二分に発揮されるようなフランス作品ばかりのプログラムが組まれている。前半はラヴェルの2作品。「マ・メール・ロワ」ではメルヘンの世界をスラットキンが精妙に描いてくれるだろうし、ピアノ協奏曲では、日本を代表する名手小菅優とオケとの丁々発止のやりとりがわくわくした躍動を作り出してくれよう。今回のリヨン管の来日で小菅優との共演は東京芸術劇場の当公演だけという点も注目される。そして後半はオルガンが入るサン＝サーンスの交響曲第3番。スラットキンの鮮やかな棒さばきのもと、オケのフランス的音色と東京芸術劇場のフランス・ガルニエ社製オルガンの響きとの溶け合った壮麗な演奏が繰り広げられるに違いない。このコンビのお披露目に相応しい演奏会となるだろう。

——— 寺西基之(音楽評論家)

～2014-2015 東京芸術劇場海外オーケストラシリーズ～

II モントリオール交響楽団

III フィルハーモニア管弦楽団

指揮: ケント・ナガノ

指揮: エサ＝ペッカ・サロネン

ヴァイオリン: 五嶋 龍

ヴァイオリン: ヒラリー・ハーン

2014年10月10日(金)

2015年3月7日(土)

※各詳細は決定次第順次告知を行います。

キッズルームのご案内

東京芸術劇場でご鑑賞の際には、キッズルームをご利用いただけます！
利用日の7日前までにご予約下さい。

利用時間: 開演1時間前から終演後30分まで
利用料金: 生後4ヶ月～1歳児: 2,000円
2～6歳児: 1,000円
※予約申込み・詳細は、右記にお問合せください。

申込み・問合せ先:
芸劇キッズルームミュージズ
電話: 03-3981-7003



東京芸術劇場

〒171-0021 東京都豊島区西池袋1-8-1
TEL: 03-5391-2111
＜アクセス＞ JR、東京メトロ、東武東上線、西武池袋線池袋駅西口より徒歩2分。池袋駅地下通路の2b出口で直結しています。



Leonard Slatkin, Conductor

レナード・スラットキン【指揮】

1944年生まれ、ロサンゼルス出身の巨匠。父は指揮者、母はチェリストという音楽的家庭に育った。1980年代に、彼の手腕でそれまで無名だったセントルイス交響楽団が一躍アメリカ・ビッグ5にランク入りしたことはあまりにも有名。2011年にフランス国立リヨン管弦楽団の音楽監督に就任し、デトロイト交響楽団の音楽監督、ピッツバーグ交響楽団の首席客演指揮者も務めている。これまでシカゴ交響楽団、クリーヴランド管弦楽団、ボストン交響楽団、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、ロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団など数えきれないほどの名楽団に客演し、BBC交響楽団の首席指揮者も務めた。タングルウッド、ラヴィニアなど国際音楽祭にも定期的に登場している。オペラでもメトロポリタン歌劇場、シカゴ・リリック・オペラ、パリ・オペラ座バステュー、ウィーン国立歌劇場に定期的に客演。録音も100以上あり、グラミー賞を7回受賞。フランスのレジオン・ドヌール勲章も受章。



Yu Kosuge, Piano

小菅 優【ピアノ】

高度なテクニックと美しい音色、若々しい感性と深い楽曲理解で最も注目を浴びている若手ピアニスト。9歳より演奏活動を開始し、2005年ニューヨークのカーネギー・ホールで、翌06年には、ザルツブルク音楽祭でそれぞれリサイタル・デビュー。ドミトリエフ、デュトワ、小澤、大植、ノリントン、オラモ等の指揮でベルリン響、フランクフルト放送響、シュトゥットガルト放送響、ハノーファー北ドイツ放送フィル、サンクトペテルブルク響、フィンランド放送響等と共演。10年ザルツブルク音楽祭で、ポゴレリッチの代役としてヘレヴェッヘ指揮カメラータ・ザルツブルクと共演。12年4～5月、紀尾井シンフォニエッタ(指揮: T. フィッシャー)の米国ツアー、10～11月にはシェレンベルガー指揮カメラータ・ザルツブルクの日本ツアーに参加。13年2月、服部讓二指揮ウィーン室内管と共演、ウィーン・デビュー。2010年より、東京、大阪でベートーヴェンのピアノ・ソナタ全曲演奏会(全8回)を行っている。録音は、最新盤の「ベートーヴェン: ピアノ・ソナタ集第2巻『愛』」を含む12枚のCDをソニーよりリリース。第13回新日鉄音楽賞、04年アメリカ・ワシントン賞、第8回ホテルオークラ音楽賞、第17回出光音楽賞を受賞。



L'Orchestre national de Lyon

フランス国立リヨン管弦楽団

1905年創設のリヨネ・コンサート協会に端を発し、69年にオーケストラ組織となり、83年に今の名称となって現在に至る、フランスの文化都市リヨンの誇る楽団。1987年から音楽監督を務めたクリヴィヌの力で楽団は飛躍的な発展を遂げ、その後の準メルクルやロバートソンによって持ち前の透明な色彩的サウンドを生かし、あらゆるレパートリーに対応する能力を備えていった。1979年にヨーロッパのオーケストラとして初めて中国を訪れ、アジア、アメリカへも数多くツアーを行っている。BBCプロムスやオランジュ音楽祭、パリのシテ・ド・ラ・ミュージクには定期的に招かれている。2011年に名匠スラットキンが音楽監督に就任、この稀代のオーケストラ・ビルダーによって楽団は更なる成長を遂げ、ナクソス・レーベルにラヴェルやベルリオーズ作品集の録音が進行中である。ブーレーズ、ライヒ、ダルバヴィら現代を代表する作曲家らのフランス初演も多く、エスケシュは2007年から3シーズンにわたってレジデント・コンポーザーを務めた。